



群馬原水協だより

2017年12月6日 No.49

◆ 被爆者国際署名
31,293人 (筆)
◆ 政府意見書採択自治体
2自治体 (36自治体中) 11/30

～核兵器廃絶・被爆者支援 連帯・戦争法廃止～
原水爆禁止群馬県協議会
〒371-0026 前橋市大手町3-4-2
電話 / FAX 027-257-3142

水協60周年の集い 1957年～2017年



群馬原水協の60年のあゆみ

被爆者や私たちの積み重ねが禁止条約につながった

核兵器禁止条約が採択された2017年、群馬原水協は創立60年を迎え、11月5日60周年の集いを開催しました。高草木博さんの記念講演にさきだつて6人から、あいさつとリリーススピーチが行われました。代表理事の小田暁夫さんが、労作の年表にもとづいて報告し、運動の概括としてまとめました。1面では「運動の概括」を紹介し、2面でスピーチ(上)をお知らせします。

しかし80年代を通し90年代中頃までは、国際的にも核兵器完全禁止より、米ソの核軍縮交渉、部分核実験停止条約や核拡散防止条約、中距離ミサイル撤廃、核抑止力の均衡による平和等に関心がよせられ、日本原水協、被爆者の核兵器完全禁止は主流になりませんでした。

被爆者を中心に日本原水協の原爆の被害、被爆体験を伝える長年の努力の積み重ねが、核兵器の恐ろしさを世界に広め、国際世論を変え、核兵器を非人道兵器と認定する国際決議を生み出し、「核兵器禁止国際条約」制定につながったのです。

1950年代から地域原水協が毎年積み重ねてきたビキニデー、6・9行動、平和行進、署名運動、世界大会代表派遣、パンフ・バッジの普及、世界大会報告会、原爆展、ちひろカレンダーの普及、学習会等のとりくみがこれら核兵器禁止の世界史的課題につながっていることに確信をもって、これからもがんばりましょう。(2面に関連記事)

高崎原水協が平和行進実委 市役所へ再交渉計画も

高崎原水協は11月24日、はるな生協ふれあい会館で、平和行進の総括を行いました。加盟団体から10人が参加。「若い参加者がいてとても励まされた」「通し行進者の怪我に迅速に専門的に対応、さすがです」「行進安全グッズが大活躍し、良かった」など意見が出され、意見交流しました。

また7月に高崎市へ要請した要望項目の回答を受けて、市長の署名や平和行政充実へ再度交渉することも確認しました。

ヒバクシャ国際署名

11/30 現在 **31,293筆** 安倍9条改憲ノー! 3000万署名とともに広げよう

◆ **12の69行動・全県に広げよう**
◎伊勢崎6日(月)15時 コープ宮子店
◎前橋 9日(土)13時半 前橋駅北口
◎高崎 9日(土)12時 高崎駅東口
*11月7日(日)高崎(スズラン交差点)と前橋(グリーンロード)で成人式の署名計画。

高崎原水協は9日、高崎駅東口で署名行動。高崎革新懇の田中さん、平和委員会の宮内さんや新婦人の野村さん、樋口事務局長が訴え、署名15人と募金が千円寄せられました。強風の中頑張りました。(樋口明宏さんより)

伊勢崎平和委員会は6日にコープ宮子店前で4人が参加してヒバクシャ国際署名にとりくみ、45人から賛同が寄せられました。禁止条約の採択が知られていました。(岡田愛之助さんより)

前橋原水協4日、前橋駅前前で少し早い69行動にとりくみ、ICANのノベル平和賞は被爆者などの運動が評価されたもの。政府こそ禁止条約に参加し。北朝鮮問題も平和解決をと呼びかけました。新婦人や共産党などから8人が参加し60人の署名が(写真右)。



署名推進では、新婦人が1万四千の大台に。自治体めぐり・図書館めぐりなど、友人段階から拡散中。署名がかなり状況は、団体では、①新婦人14、②民医連5、③群商連4、④地域では①高崎1、②伊勢崎6、③館林6、④53、⑤伊勢崎655、⑥館林616です。毎月の集計と報告をお願いします。(11月末現在)

全国担当常任・事務局長会議開かれる

2018年を展望した情勢、禁止条約を力に運動の発展を

丹羽次長の参加報告



担当常任理事・全国事務局長会議
●加報告
丹羽正弘

11月
23日～
24日東京

京お茶の水にある「平和と労働センター」において日本原水協の担当・全国事務局長会議が行われました。

今回の会議の主な目的は総選挙後の情勢を確認し、野党共闘で切り開く日本の新しい政治、わけても核兵器禁止条約を共通政策としていくうえで運動の発展が求められる中、そのための国民的な共同を発展させる原水爆禁止運動の役割について再確認し、2018年を展望しての情勢と課題、当面する3.11ビキニデーへのとりくみ、さらに、日々原水禁運動にとりくんでいる全国の事務局長の悩みや活動を交流し、意思統一をはかるためのものでした。

安井事務局長は会議の冒頭「先の総選挙では市民と野党の共闘ができたことは大きな成果、私たちは核兵器禁止条約を実現する政府の実現を求めてた

たかったが、結果は与党が多数を占めることになった、特徴的なことは若者の投票行動、20代の多くが自民党に投票したと言われている。こうしたことも注視していかなければならない。今後青年のエネルギーをどう結集していくか課題である。」「核兵器禁止条約を実現するための私たちのとりくみは国際政治に変化をもたらしている。核兵器の無い世界への流れを押しとどめることはできない。」「一方、日本政府が最大の売り物にしてきた『橋渡し論』の破綻が明白となり、核保有国追従の姿勢があらわになった事である。」「

「今北朝鮮の問題で国民を危険にさらし、犠牲にしているのは安倍首相である。」と報告しました。

安井事務局長の報告を受けて参加者から

岡山：真庭市の広報では「禁止条約への参加に反対しているのは恥ずかしいことだ、後世の人々へ残す財産だ」と書かれている」

神奈川：来年を展望すると禁止条約が発行する年になる。市民運動が重

要、9条改憲が大きなたたかいになる。改憲されたら禁止条約への参加はますます難しくなる。

その他の県からは被爆者署名へのとりくみ、地域連絡会結成の報告、3000万署名といっしょに被爆者署名にとりくんで行くことの重要性が語られました。

群馬のとりくみは「群馬原水協60周年の報告と、被爆者署名へのとりくみ、分けても新婦人の皆さんの活動がぬきんでていること、前橋など県下5市町で職員から多くの署名を得てきたこと。悩みの点では若い世代への運動の継承をどうしたら良いか。若者に核兵器禁止を訴える手立てを工夫する必要がある。」と報告しました。



日本原水協担当・事務局長会議 11/13 全労連会館

「群馬原水協60年のあゆみ」年表にもとづいて (上) 群馬原水協代表理事 小田暁夫

小田代表理事のスピーチ (要旨)

群馬は、運動は一生懸命やってきたが資料がない。事務所が3回引っ越したこともあって…。高教組の倉庫に今もあるかもしれない(笑)。今日は、地域運動の積み重ねがないと本当の歴史はないが、(年表の)1ページ目にはもう亡くなった菊地定則さん、佐藤正二さん、稲垣倉造さん、山田寿子さん、境の中野五郎さん。生存の方では藤森光男さん、後藤由美子さん、高教組の中川春雄さん、横田裕太郎さん、亡くなった福井洋之さん。こういう人たちが県の組織を支えた方達である。

署名が朝鮮戦争での核兵器使用を防いだ

地域の人たちの広島に原爆が落ちてから核兵器反対の運動は1950年のストックホルム・アピールに始まって、核兵器廃絶、最初に使ったものは戦争犯罪人だと世界で、日本では640万の署名が集まった。群馬でも92,288の記録がある。これが間もなく始まる朝鮮戦争で核兵器を使えというトルーマン大統領その他の動きを抑えた。署名は戦争を防ぎ核兵器の使用を防ぐ。いますめている署名もそうだ。

米軍の妙義基地建設阻止 ビキニ被爆と国民的署名

53年～54年に妙義基地反対闘争があり、建設を阻止した。この運動を背景にして55年にヘルシンキで世界平和大会があって、菊地さんが代表して参加した。この間にビキニの実験があった。そしていわゆる核兵器禁止の

国民的大署名が全国からほうはいとして起きた。

55年8月に東京の大会で集約した32,382,104の署名が集まった。これを基盤として原水禁止に本協議会が結成され、第1回世界大会も行われた。

群馬原水協の結成 西本あつしさんと平和行進

この頃はオールジャパンで、自治体から保守からみんな入っていた所が多い。1957年10月18日に原水爆禁止群馬県協議会ができた。菊地さんが本を書いて残してくれた。

妙義闘争のとき、その前の内灘の米軍基地闘争があり、そこで頑張っていた日本山妙法寺のお坊さん(西本敦さん)が、妙義基地建設があると群馬にきた。西本さんは、高知県人だ。ここでたたかって亡くなったのだから、群馬県人と同様である。

第4回世界大会に向けて、核武装の進行と危機が高まっていることを訴えて平和行進をやろうと彼が提起した。しかし労働組合中心の人たちが動員するには金がかかるからとできないと言った。「それでは」と彼は広島から一人で歩き出した。そしたら数人がついてきて、どんどんついてきて東京に着いた頃は1万人になった。これが平和行進の始まりだった。これを受けて今日までいろんな形で平和行進が続いてきた。

(以下「60年代…」は次号に続く)